

学習指導要領は「学びの地図」

東京都立晴海総合高等学校 講師
(元キャリアカウンセラー)

千葉吉裕

学習指導要領の改訂が進んでいる。平成29年3月、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校(幼稚園及び小学校、中学部)の学習指導要領が改訂され、平成30年3月、高等学校、特別支援学校(高等部)の学習指導要領が改訂される予定になっている。

「学習指導要領」と聞いても、一般の人にはあまりなじみがないのかもしれないが、学校現場にとっては、教育の指針となる重要な文書であり、改訂内容を現場の教育に反映させるべく、読み込むこととなる。「学習指導要領」は単に告示されるだけでなく、学校教育法施行規則によって、教育課程を編成する際に、学習指導要領の指針に沿って教育課程を編成するよう決められており、学習指導要領を逸脱した教育を行うことはできないしくみになっている。

学習指導要領は、ほぼ10年に一度改訂されるのだが、その改訂には多くの時間を費やし、議論を積み重ねて完成を迎えることになる。今回の改訂でも、平成26年11月20日、文部科学省中央教育審議会に当時の下村博文文部科学大臣が諮問し、約2年の議論を経て、平成28年12月21日に、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」という答申がまとめられ、その答申をもとに、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会に数多くの教育課程部会が設置され、半年ほど

の時間をかけて、学習指導要領が改訂される。告示までの間には、案が示され、広く意見を募り、それら意見に対し検討し、その回答も公表される。委員会や部会での議論や、会議で配付された資料についても文部科学省のHP上に公表されており、議論の透明化が図られている。

今期の改訂された学習指導要領は、これまでの学習指導要領と、かなり書きぶりが異なっており、量も多く、それぞれ詳しく書かれているのが特徴だ。平成20年3月に改訂された小学校学習指導要領が104ページだったものが、今回は、170ページと大幅に増えている。増えたのには理由がある。その理由が学校以外の皆さんに大きく関わる話なのだ。結論を先に言えば、教師以外の皆さんに読んでもらうことが書きぶりを変えた理由である。

平成28年9月21日の中央教育審議会の議事録に、無藤隆委員の発言として「子供たちの未来を実現するために教職員だけが分かっているということではなく、保護者、そして地域、もっと広く日本社会の構成員のそれぞれが学校教育の重要性和、学習指導要領が目指すところを理解し、共有してほしいということであります。社会総掛かりで学校教育を良くしていく、高めていく、その協力をお願いするためにも、学習指導要領を広く、分かりやすく提示していく必要がある。今回『学びの地図』という例えを使っておりますが、

現場の教員に十分に理解してもらおうための伝達、研修について、従来以上に広げる必要があると思いますが、それとともに保護者、地域の方々への理解をいろいろな形で図りたいということがもう一つ、学習指導要領の実現、具体化に向けての要望となっております。」と記されており、学習指導要領が単に学校だけで読まれるものではなく、日本全体で教育を良くするムーブメントを起こす資料という期待が述べられている。教育を受ける側の子どもたちも、難しいとは思いますが読んでほしいという願いもある。

読み手を意識しているとはいえ、専門用語も多く、学校関係者以外はわかりにくい箇所が多々ある。「読みにくい、わからない」という感想が聞こえてきそうだが、わからない所は、学校の教職員に聞いてもらえればと思う。学校教育は、教職員だけで行えるものではなく、保護者を始め、地域の協力・支援なしには進められないほど、今、高度化多様化しており、多くの知と、様々な専門的な技能を必要としている。是非、多くの人に学校教育に関わってほしいと思う。きっと、関わることを考える機会になったりするのではないだろうか。

どのように学校教育に関わろうかと考える意味でも、学びの見通しを示している「学びの地図」としての学習指導要領を活用してほしいものである。